

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900110		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホーム高梁2号館		
所在地	岡山県高梁市落合町阿部2029-1		
自己評価作成日	平成27年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyouvoCd=3390900110-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日差しの良い暖かなリビングでご利用者の方々はご自宅と同様の日常生活を過ごされています。敷地内には芝生の敷かれた中庭があり、ご利用者の方々は庭の散歩をしたり、お茶を飲んだり時には食事をしたりと季節感を感じながらゆったりと生活をされています。その中に職員は寄り添いながら支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の窓からは、緑豊かな山々や自然がいっぱいの雄大な景色が見える。医療法人である母体は、数種の施設を運営し、切磋琢磨し協力しながら施設作りをしている。地域や家族の繋がりを大切に、行事やイベント、旅行等を計画し、地域密着型施設としての役割を果たしている。広報誌「そよかぜ」を発行して外部へ発信している。職員と利用者は、地産地消の食材を使い調理し、季節を感じながら美味しい御馳走を楽しんでいる。食事の片づけや掃除、洗濯たたみを手伝い、役割を持って第二の我が家でその人らしく日々過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく介護を実践しサービスの質の向上に心掛けている。	理念は事務所、ホールに掲示して共有し、意識付けを図っている。ミーティング時に意見交換や話し合いを持ち、理念に基づいたサービスの質の向上とケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが地域の行事への参加や、ホームでの行事についてはちらしを配布している。	地域の行事や備中町のふるさと祭りに出掛けている。地域との一体化を目指し「夕涼み会」や「敬老会」等のイベントを催している。実習生を受け入れ、子供神楽や生け花ボランティア等交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	たまに相談を受ける事がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告等行ない、話し合いをし意見を聞いてサービス向上に努めている。	運営推進会議は、地域福祉課、家族、住民の代表等が参加し開催している。利用状況や活動報告、意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	地域の方達へ認知症の理解や事業所を知ってもらう機会として回数を重ね、密な関係継続が出来る様今後を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を取り、協力関係を築くよう努力している。	運営推進会議には行政が参加しており、困難事例等相談したり、助言やアドバイスを受けている。研修案内があれば出来るだけ参加している。行事やイベントへの参加をお願いし、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解し、玄関や窓の施錠はせず日頃から身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	契約時家族に説明し同意を得ている。玄関や窓は施錠せず、各々が自由に出入りし、畑や散歩に出掛けている。ミーティング時に話し合いをしているが、現在拘束を必要とする利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待について学び、日頃から虐待が起きないように注意・防止し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会はあるが、それらを活用し支援するまでは行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、疑問点を尋ねたりして理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話をする時間を設け、反映されている。	家族、本人から契約時、面会時に意見や要望を聞いている。入居してからの不安等が解消される様、長い時間を掛けて会話をしている。広報誌「そよかぜ」を年4回発行し、情報を外部に発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の職員に対し努力や実績を反映している。また職場の環境、条件の整備にも努めている。	申し送りや月1回ユニット毎のミーティング、月1回の全体会議を行い、意見や提案を聞く機会としている。認知症ケア等内部、外部の研修に参加し、法人は職員の努力や実績を考慮し、職場の環境整備等に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員に対し努力や実績を反映している。また職場の環境、条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加は行っている。また、常に認知症ケアについて話を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人単位でネットワークづくりや勉強会が行われ、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者本人の思い、体調などに考慮した対応を個々の職員が心が下っている。また各職員間での情報交換も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	誰もが初めての事に対して不安等を持っておられる。ご家族の思いをしっかりと聞き安心感を持っていただけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用時には、必要な支援を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時に立場を変えて考えたり、時には母のように子のように接しながらともに暮らすという事に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の協力の下で職員と共にご利用者の生活を支えあうよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人・場所とできるだけ関係が継続できるように心掛けている	家族との関係が密で、馴染みの場所や店に出掛け、お墓参りや法事、正月の帰省が行われている。各ユニットに友人や幼馴染がそれぞれ入居し交流が行われ、馴染みの関係が途切れない様支援している。理美容は月1～2回の訪問がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように配慮し、お互いが関わりを大切にできるように支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もなにか相談事などあれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望等ご本人が話せるよう心掛けている。困難な場合は本人の立場ご家族の意向を聞きながら対応している	契約時生活歴を知り、趣味や嗜好を聞きながら、思いや意向を把握し対応している。表出困難な人は、日々の暮らしの中での表情や、行動から汲み取り本人の目線に立ち、本人本位を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族の話を聞きながら生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や健康管理票にて把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を尊重しながら、またご家族の意向も取り入れながら行っている。	契約時のアセスメント、家族の意見や要望、介護記録、ミーティングでの情報を集約し、個別にケアカンファレンスにて、見直しをし現状に即したニーズを捉えプランに反映させている。	一人ひとりの多様なニーズを捉え、カンファレンスを行っている。個々のケアに対する理解を深め、共通認識が持てるモニタリング等の記録について検討を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に記載職員間で情報共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズに合わせた対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については入所時に本人ご家族の意向を取り入れている。受診に際してはできるだけ職員同行し情報の共有に勤めている	家族が元のかかりつけ医を希望する場合は家族が同行の受診とし、月に2回協力医の往診がある。看護師は週1回の訪問で、緊急時等医師との連携が図られている。必要であれば歯科や診療所の受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間対応として、利用者の体調変化や困った時などは常に連携を取りながら対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供している。また退院についてもできるだけ早期受け入れができるように医師・看護師と関係づくりを心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについて説明を行っている。また状態の変化に伴い、職員や御家族と常に話し合いながら事業所で出来る事等説明を行っている。	入所時や必要時に看取りについて説明している。身体機能の低下、認知症の進行等により事業所での生活が困難になった場合は、他施設への入所相談や受け入れ態勢、病院の紹介等をしている。緊急時対応のマニュアルも作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時については対応マニュアルの作成や法人内での救命法の指導の機会もある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施を行っている。	消防計画に基づき、年2回昼夜間を想定し避難訓練や消防署の協力を得て、消火訓練を実施している。緊急連絡網の整備や、機器の点検を行い、災害時の避難場所の確認や、食糧の確保をしている。	年2回避難訓練、消火訓練が行われている。その際に地域住民の協力が得られる様、運営推進会議で防災についての話し合いや、地域との協力体制が出来る事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを保つよう心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重しながら、トイレや入浴時の誇りやプライバシーを損ねない声掛け等を行っている。視線を下げ、利用者個々のペースを守り、自己決定出来る様対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でさまざまな場面で出来るだけ自己決定ができるような声掛けに勤めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースでなく利用者のペースで日常生活をしていただけるよう心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみなどに気を配れるよう支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを一緒に考えたり出来る事を一緒にしながら食事の準備や後片付けを行っている	嗜好を聞きながらメニューを考えたり、調理や片づけを一緒にしている。菜園で採れた野菜や新鮮な魚、豆腐、肉などの地産地消を取り入れている。行事や催事に合わせた手作りのご馳走やおやつ、お弁当等を楽しむ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量の確認や食事形態などの工夫を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々の状態に合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握してできるだけ自立した支援を行っている	排泄記録から一人ひとりのパターンを知り、声掛けをしている。見守りのみの支援で十分な利用者が多く、トイレ表示を大きくする事で、自立に向けた支援になっている。便秘対策として水分補給や運動を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食はもちろん運動も取り入れながら、薬等の調節を行い対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては御利用者一人一人その時の状態等に合わせ時間等の縛られず対応している	一人ひとりの体調をみながら希望を聞き、各自で自由に決めている。現在拒否の人はいないが、時間を掛け、密な関係作りや声掛けの工夫をしている。ゆず湯や保温効果の高い入浴剤で楽しむ支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者一人一人その時の状態等に合わせ時間等の縛られず対応している。また冬場は湯たんぽにて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を常に職員が見れるように設置している。服薬後の状態変化にも気を配るよう心掛けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味嗜好に応じた対応を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内は自由に散策して頂ける様に心掛けている。ご家族に協力を得ながら旅行を計画したりしている	敷地内を散歩したり、芝生の中庭で外気浴やお茶を楽しんでいる。花見や紅葉狩りにお弁当を持って出掛け、買い物や外食を楽しんでいる。家族を交え旅行を計画し、楽しい一日を一緒に過ごし、嬉しい思い出作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をご自分でされている方もおられる。外出時にはご自分で支払いをされたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込みやホーム内の電話は自由に使用して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や玄関・リビングや廊下の生花など気配りをしている	玄関から屋内にかけて季節の花を活け、鉢植えを配し、心地よい風と共に季節が肌で感じられる。ホールは床暖房で温かく、思い思いにソファや炬燵に座り、仲良し同士でお喋りや居眠りを楽しんでいる。お雛様が飾られ、壁には写真や手作り作品を貼っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・イスを色々なところに置き居心地良く過ごせるように工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の大切なスペースと考えなじみの物の持ち込みはあまり制限していない	洗面所、タンスは設置され、安全を第一に考え危険のない様ベッドを配置している。テレビ、時計、ポット、ハンガーラック、手作り作品、鉢植えの花等使い慣れた物を持ち込んでいる。冬場は湯たんぽが用意され温かく過ごせる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一と考えるもその中で、出来る事が継続してできるよう自立した生活ができるように心掛けている		